

# 特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

## 目的

県立大府特別支援学校と施設内教育(病院内に教室を設置)や訪問教育(児童生徒が入院する病院を教員が訪問し個別学習を行う)を実施している病院、原籍校の小中学校とが連携し、入院児童生徒への切れ目ない教育機会の保障体制の整備を行う。

- ・ 入院児童生徒の切れ目のない教育を保障するための環境整備を推進
- ・ 関係取組状況の把握、成果等の検証を行う運営協議会の実施
- ・ ICT機器の活用により、入院のため制約されがちな学習機会や経験を広げる。
- ・ 同時双方向型の通信技術を活用し、主体的・対話的な交流及び共同学習を行うことで児童生徒の学びを深める。
- ・ ICT機器等の活用により授業の質や教員の専門性を向上させる

## 成果

- ① 運営協議会の実施により、訪問教育の授業時間確保、スムーズな転籍、治療と教育の連携など、病院と学校が長期的な視点で意見を交わし、情報を共有することができた。
- ② 関係機関が連携したことで、本事業の趣旨が保護者にも浸透し、病院の学習をあらかじめいた児童生徒が転学して学習を受けるなど大きな成果があった。
- ③ ICT機器の活用は、行動制限のある病弱児童生徒の学習を保障するうえで、必須の支援ツールである。単に授業配信だけでなく、さらに活用の場面を工夫し、学校行事、校外学習、進路指導、懇談活動、学校間交流などの活用が広がった。

## 事業内容

### ① 関係機関が連携した切れ目ない教育体制

入院児童生徒と原籍校を同時双方向の通信技術を活用してつなぎ、授業や交流を通して心理面での負担を少しでも軽減し、原籍校へスムーズに復学できるようにする。

### ② 教育機会確保のための環境整備

同時双方向の通信技術を活用した授業やオンデマンド型の各教科等の映像視聴を実施するため、ICT機器の充実及び環境整備を行う。

### ③ 授業の質や教員の専門性の向上のための研修会の実施

同時双方向型の授業の質の向上や機器の活用方法の向上を図るための研修会を実施する。ICT機器に関する外部講師や県総合教育センターの情報担当、病院関係者を講師に招き、県内の院内学級担当も対象として実施することで、入院児童生徒への教育保障を普及する。

### 同時双方向型の交流及び共同学習

- ・ 大府特別支援学校と病院内の教室をつなぎ、入院児童生徒がリアルタイムで交流及び共同学習ができ、意見交換などができる。道徳、総合的な学習の時間、プログラミング学習等、部集会(月1回)、文化祭等の交流



大府特別支援学校



院内教室・訪問教育

病院内との交流及び共同学習  
(行事参加 学級活動 授業交流)

ベッドサイド学級  
遠隔操作ロボット活用した  
授業  
分身ロボット

- ・ 名古屋大学医学部附属
- ・ 藤田医科大学病院
- ・ JCHO中京病院他

### オンデマンド型の学習

- ・ 入院中の病室等で入院児童生徒の学習ができるクラウド上等の各教科等の動画を視聴  
**院内学級ベッドサイド授業での活用**  
学習支援サイト、ソフト、アプリケーションの活用  
NHK for school や動画、ネット検索、理科の実験、植物の栽培記録等



### 運営協議会

関係者と外部有識者による、取組状況の把握、成果の検証

### 研修会

遠隔授業における教職員のスキルアップのための研修

### 連携体制会

総合教育センター情報システム研修室による支援